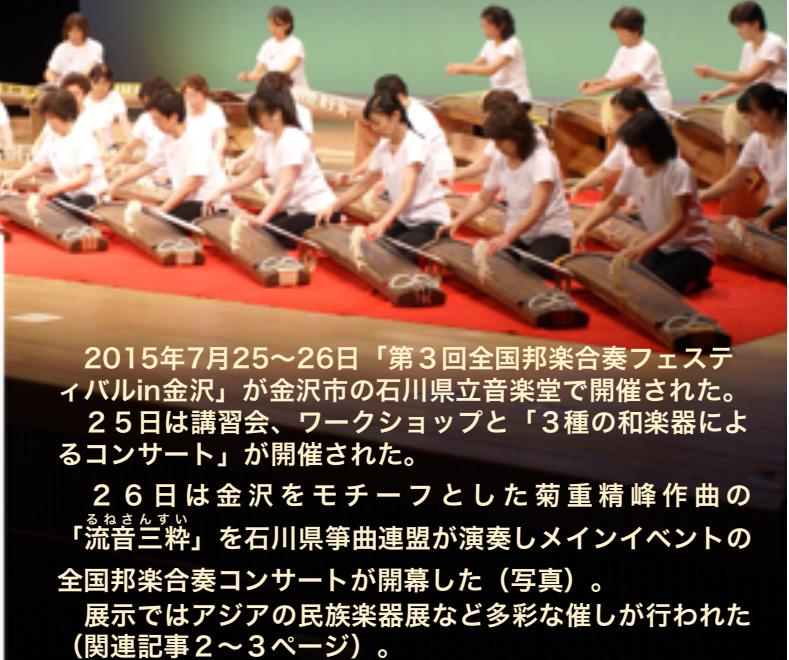


第3回全国邦楽合奏フェス in 金沢



「3種の和楽器によるコンサート」で演奏する、尺八の藤原道山氏と箏の帯名久仁子氏。山田瑞恵氏も太鼓で参加。



2015年7月25～26日「第3回全国邦楽合奏フェスティバルin金沢」が金沢市の石川県立音楽堂で開催された。

25日は講習会、ワークショップと「3種の和楽器によるコンサート」が開催された。

26日は金沢をモチーフとした菊重精峰作曲の「流音三粹」を石川県箏曲連盟が演奏しメインイベントの全国邦楽合奏コンサートが開幕した（写真）。

展示ではアジアの民族楽器展など多彩な催しが行われた（関連記事2～3ページ）。

日韓伝統音楽交流実現！

2015年5月1,2,3日韓国釜山で両国の伝統音楽での交流が実現した。2014年に実施予定だった行事が韓国でのフェリー沈没事故で中止となり、開催が危ぶまれていたが全奏協と韓国国立釜山国楽院、国楽合奏団「オウルリム」、韓国海洋大学校合唱団Sea Cross、在釜山日本総領事館などの尽力で実施にこぎつけた（関連記事4ページ）。



写真 2015年韓日伝統芸術交流音楽会で日韓の伝統楽器による「アリラン（指揮 クォン・ソンテク氏）」の合同演奏（5月3日釜山国楽院蓮楽堂大ホールで 撮影：梶田誠）

第4回 全国邦楽合奏フェスティバル 概要固まる

本年12月9日（金）～11日（日）に第4回全国邦楽合奏フェスティバル（徳島市他）の概要が固まった。

9日は神山温泉で、講演会と「邦楽未来への行動」と題する討論会、10日はメイン会場の「あわぎん」ホールで講習会、ワークショップ、11日は全国邦楽合奏コンサートが行われる。「徳島邦楽ルネッサンス」との連携企画も予定されている。

二つ折れ箏など海外演奏で重宝しそうな新開発楽器も展示され弾き比べができる（関連記事6ページ）。



メイン会場となる「あわぎん」ホール

主な記事

- P.2-3 第3回全国邦楽合奏フェス
- P.3 金沢邦楽合奏講習会
- P.4 金山国楽院・金山海洋大学・オウルリム合奏団との交流
- P.5 全奏協邦楽コンクール
- P.5 中国蘇州・上海演奏旅行
- P.6 ごあいさつ
- P.6 第4回全国邦楽合奏フェス

総会告知

開催日：2016年6月4日（土）
時 刻：14時
場 所：新宿 NPO 協働推進センター
(東京都新宿区高田馬場 4-36-12)

第3回 全国邦楽合奏フェスティバル in 金沢

1日目

1日目は5つの講習会と1つの演奏会が行われた。

そのなかで富山清琴

氏(人間国宝)の「地歌・語り物入門」では、今藤政太郎氏(人間国宝)の「伝統の継承とは何か。十分の狂いもなく伝える必要はないと思う」という問い合わせに対して、「弟子は師の半芸に至らず」という言葉でその時代にあった自分なりの工夫が必要だと応じていた。

吉崎克彦氏の十七弦基礎講習会では、あまり十七弦についての講習会開催が多くない中、沢山の十七弦が準備され、求める音色と弦を弾く位置などが丁寧に説明された。また、2日目フェスコンサートで演奏する「雪月花によせて」講習会も行われた。

星田一山氏の尺八を上手に吹くための基礎の基礎では、尺八を支えるポイントは下管の1点しかないこと、音出しのポイントの探し方など氏独自の研究の成果が披露された。

藤原道山氏の効率的な音の出し方と指の技法では、指の筋肉と手のひらのそれとの関連に言及し、力を抜くためのエクササイズなども行いながらの講習となった。夜は1面既報の「3

「第3回全国邦楽合奏フェスティバル in 金沢」を終えて



全奏協理事長の藤本玲氏より「金沢でぜひフェスを開催を」というお話を頂き、第2回の開催地、三鷹へ視察に行きました。

そこで目にしたのは、これまでにない邦楽のイベントで、活気ある参加者たちが生き生きと演奏し、その空間を心から楽しんでいた光景でした。まさに目からウロコ状態でした。この雰囲気を金沢の人たちにも味わい、体感してほしいと思って帰りました。

しかし、実際ゼロからのスタートで、気持ちはあれど何から手をつけてよいやらわからず、第2回の膨大な資料を頂いても茫然と暗中模索状態の時期がありました。

でも人間一人では何もできませんが、若い人の発言やこれまでに

なかった行動力を目の当たりにして、新鮮な感動を覚えながら、皆さまに支えられて進めてきました。流派、ジャンルを超えて邦楽を愛し、発展させていきたいと願う全国の仲間の方の姿勢を感じることができました。

全国から参加して下さった皆様からは、後日身に余るご感想を聞かせて頂き、安堵しております。会場が広くわかりにくかったなど反省点もありますが、金沢の(邦楽に關係ある)名産品やアジア民族楽器コーナーなど特色もあって楽しんで頂けたのではないかと思います。

今後はフェスで培った財産を糧として、新しい邦楽界に少しでもお手伝いしていけたらと思っております。

(石川県箏曲連盟理事長・
実行委員長 田中杉美勢)

関連行事

本フェス2日目の26日、会場の石川県立音楽堂前広場では石川県音楽文化振興事業団主催の「音楽堂ミュージックグ

リーティング」が行われ本会顧問の三塚幸彦氏率いるグループが尺八とピアノのセッションを繰り広げ聴衆を魅了した(T)。



尺八の演奏を聴く来場者
—金沢市の県立音楽堂前広場

27日付け北國新聞でもイベントの模様が報道された



▲左 吉崎克彦氏の十七弦基礎講習会、▲右 富山清琴(人間国宝)氏の「地歌語り物入門」質問者は今藤政太郎(人間国宝)氏、▼左 星田一山氏の「尺八を上手に吹く基礎の基礎」講習会▼右 藤原道山氏の「効率的な音の出し方と指の技法」



ラジオ体操で心ひとつに

舞台袖で楽器係として動いていた私は、上手から手招きしている人がいる。このフェスの実行委員長である。この演奏会中にフラッシュモブがあるとは聞いていたが、いきなり手招きされて舞台に出ろというのには、私にとってもサプライズ!

何が始まるのかと思ったら、「竹づれづれ」の演奏でラジオ体操のメロディーが流れ始めた。一人がお馴染みのアナウンスで盛り上げる。そのまま舞台でラジオ体操に参加した。舞台から客席を見ると、ほとんどの聴衆がその場に立って喜んで体操し

ていた。

フラッシュモブとは、申し合わせた者が公共の場に突如現れてパフォーマンスをやることだが、ラジオ体操なら誰でも知っている。全24曲中18番目、辛抱強く客席で聴いていた人たちにとっては、ちょうど体をほぐす絶好のタイミングだった。アイデアもさることながら、また尺八の演奏もすばらしく、素朴な竹の音で軽快なラジオ体操の伴奏というミスマッチ勘が絶妙だった。

一般の邦楽演奏会ではあり得ない光景はこのフェスならではであり、会場全体が一つになり心も体も温まった。「竹づれづれ」の皆さんには感謝である。

(大宮明恵)



会場の聴衆とステージとがラジオ体操をおして心ひとつになった

2回目

2日目のメインイベントは邦楽ホールでの全国邦楽合奏コンサートだ。全国から邦楽合奏を楽しみ、邦楽の魅力を伝える合奏団が演奏する22曲と合同曲2曲の計24曲が演奏され、定番の曲目のほか、委嘱曲、初演曲も披露された。委嘱曲では大阪から参加の和楽器オーケストラ邦楽合奏団「鼎」が飲酒暴走事故の悲劇を訴えた前田智子氏作曲の「ステラオブアカネ.M.エンジェル」、東日本大震災支援活動のなかで生まれた高橋久美子氏作曲の「光咲む刻」など、メッセージ性のある曲も演奏された。

初演曲は約30年前にプロアマの垣根を超えてパソコン通信を通じて出会った全国の邦楽仲間が、当時のハンドル名で演奏を披露したNIFTY邦楽フォーラム(なむらしげよ(名村茂代)団長)の「大無限流」だ。初期メンバーの一人、桃太郎(水川寿也)氏が作曲し、それに桃太郎氏が指導する大分の邦楽合奏団「韻」から横笛の2名も加わり初演となった。桃太郎氏は所用で参加できなかった



NIFTY 邦楽フォーラム(指揮 MIDO=星田一山氏)による「大無限流(桃太郎=水川寿也氏作曲)」初演の演奏

展示

展示部門では、アジアの民族楽器展、地元和楽器店による箏の糸緒実演、金沢の名品紹介、尺八吹き



アジアの楽器演奏を体験する参加者

比べ(上)、邦楽合奏コンサート参加団体を紹介するポスターセッション、お茶席、地元書籍販売(中)、作曲家グループ<2010>(下)、現代邦楽作曲家連盟、邦楽ジャーナル、邦楽譜変換ソフト紹介のコーナーなどが設けられた。このなかで邦楽ホール前のやすらぎ広場で開催された、釣谷真弓氏所有のアジアの楽器が展示された「アジアの民族楽器展示」には金沢駅への通路に面することもあり多くの人が訪れていた(T)。



第3回 全国邦楽合奏フェス in 金沢



北國新聞
7月26日付

邦楽の魅力を連日報道

地元の北國新聞は26日付▲では行われたワークショップ、3種の和楽器コンサートなどの模様を、27日付▼では、メイン行事である全国邦楽合奏コンサートを中心とした報道を行った。



北國新聞
7月27日

邦楽合奏の魅力伝え

22団体出演 金沢で全国フェス
第三回全国邦楽合奏フェス

スティーブ・ハーヴィー(金沢市本社)

後援は26日、メーン行事

の全国邦楽合奏コンサート

が金沢市の県立音楽堂で開催された。

本部で開催された。11都府

県の22団体が演奏を同曲

が披露され、聴衆に邦楽合

奏の魅力を伝えた。

幕開けは「涙がイメージ

した委嘱制作

県筝曲連盟が流麗に響か

せ、地元開拓を歓迎した。

県内からは丘高、金大舜

尺八部、四拍子有志が

出合った。パンコ(通称

地元興支援の輪を広げよう

と題された音楽会

を主催した。

音楽や楽譜CDの展示

と楽器の演奏が併催した。

いすの人気を集めめた。

全国

邦楽合奏協会が主催、

県筝曲連盟が共催した。

曲選択が共催した。

出合った。パンコ(通称

地元興支援の輪を広げよう

と題された音楽会

を主催した。

音楽や楽譜CDの展示

と楽器の演奏が併催した。

いすの人気を集めめた。

全国

邦楽合奏協会が主催、

県筝曲連盟が共催した。

曲選択が共催した。

出合った。パンコ(通称

地元興支援の輪を広げよう

と題された音楽会

を主催した。

音楽や楽譜CDの展示

と楽器の演奏が併催した。

いすの人気を集めめた。

全国

邦楽合奏協会が主催、

県筝曲連盟が共催した。

曲選択が共催した。

合宿講習会に参加して

全奏協「第1回合宿講習会」が2015年12月12日(土)~13日(日)まで、金沢市の野田屋駅西スタジオで開催された。

日本を代表する指揮者、稻田康先生により長澤勝俊「子供のための組曲」全楽章の講習を行った。

参加者は地元の石川県、徳島、神戸大阪、東京などから22名が参集した。参加者は、大編成のアンサンブルを初めて経験する人から、全奏協で毎年企画されている海外演奏のスキルアップのために参加した人など様々であった。

稻田先生のポイントを明確にしたアンサンブル技術の指導により、全員での音作りの楽しさを味合うことができた。

演奏指導だけでなく、アンサンブルのための2つの講座が設けられた。1つはリトミックで2拍3連、3拍4連などの高度な技術を2グループでアンサン

ブルする講習。代表講習生による、一騎打ちのようなリトミックもあり多いに盛り上がった(リトミック方法は稻田先生より特別に提供をいただいたシートを全奏協通信の付録として会員に配布する)。

もう一つは子供の組曲の和声を他の作曲者が作った場合はどのようになるかを対比した講義。同じ曲でも、和声や進行が異なることを実際に体験し、音楽づくりの重要さや長澤節のポイントを理解できたことは、従来の講習会では得られない内容であった。

夜は地元の皆様の差し入れもあり、美味しい酒を飲みながら、様々な話題で盛り上がった2日間だった。

(理事 立花茂生)



▲ お世話になった金沢市野田屋琴三絃店
▼ 稲田康氏の指導で講習を受ける参加者



2015年5月3日午後5時、国立釜山国楽院と全国邦楽合奏協会（以下全奏協）の合奏団の交流公演、2年越しの計画がまさに始まろうとする瞬間を舞台袖で緊張の面持ちで待った。国立釜山国楽院合奏団の「宮中祭礼樂」で幕が開き、厳かな踊りを伴った日本の雅楽に通じる音色が500人を超す聴衆を集めた蓮楽堂（ヨンラッタン）大ホールに広がった。

これに遡る2014年4月16日の韓国の旅客船セウォル号沈没事故で中止になった企画を再度一年間の準備で実現した音楽祭である。国楽院のソ・インファ院長、マネージャーのチョン・ミュンウクさん、舞台構成担当のイ・ユンジュさんらの骨折りで、釜山文化財団が企画する「朝鮮通信使祭り」の行事の一環としての「韓日伝統芸術交流祭」が実現した。奇しくも日韓国交正常化50周年記念の年に当たり、意義深い事

抜粋を披露した。最後は全奏協、オウルリム、韓国海洋大学校合唱団Sea Crossの3団体合同で「アリラン」、「アメイジング・グレイス」、「さくらさくら」の演奏を行い、異なる種類の音の響きを全員で楽しんだ。

2日の国楽院でのリハーサルを経て、3日の芸術祭本番では伝統音楽に関するシンポジウム、伝統楽器の体験ワークショップ、そして両国合奏団の交流演奏会が開催された。シンポジウムでは日本側から「両国伝統音楽の相違点と類似点」、「日本の邦楽界の今」そして「全国邦楽合奏協会の成り立ちと韓日伝統音楽交流の始まり」のテーマで講演が行われた。楽器体験では箏とカヤグム、三弦とヘグム、尺八とテグムの組合せで参加者が楽器体験し、両国の楽器の類似性を感じ取った。

交流演奏会は国楽院合奏団が



▲韓日伝統芸術交流音楽会での演奏
▼稲田康指揮による全奏協、オウルリム、韓国海洋大学校合唱団Sea Crossの3団体合同演奏



花咲いた日韓伝統音楽祭

業になった。

このイベントには、千葉、東京、大阪、兵庫、広島、徳島、高知の都府県から24名のメンバーが参加した。この日のために、関東地区、関西地区で別個にリハーサルを行い、個別に釜山に集った。5月1日に徳島邦楽集団と交流のある国楽研究会オウルリムの練習場で初めての全員によるリハーサルと交流演奏会で今回の釜山での事業が始まった。全奏協は琵琶、箏、尺八の3つの楽器による「友～韓國～」、そして全員合奏で「子供のための組曲」の



▲左での八千代獅子の演奏(2015年韓日伝統芸術交流音楽会 蓮楽堂大ホール)

▲右上 韓日伝統音楽討論会(釜山国楽院) ▲右下 韓日伝統音楽ワークショップ(釜山国楽院)

▼稲田康氏指揮 ソーラン節の日韓合同演奏(2015年韓日伝統芸術交流音楽会 蓮楽堂大ホール)



「宮中祭礼樂」に続いて韓国民族音楽の「カヤグム散調」と「サムルノリ」。3種の打楽器で構成されたリ



ズミカルで急テンポのサムルノリが会場に響き渡り、大きな喝采を浴びた。全奏協の演奏は、古曲「八千代獅子」と現代曲「子供のための組曲」。八千代獅子は三弦、箏、尺八の合奏で日本の古典の響きが観客を魅了した。そして「子供のための組曲」は長沢勝俊が作曲した5章からなる曲で、箏、十七弦、尺八、三弦、琵琶、そして打楽器の響きが交錯する。全員でのリハーサルが短時間であったにも関わらず、稲田康氏の巧みな指揮でメンバーの気持ちが一つになった。終楽章は和太鼓で始まり、三絃、尺八、箏が加わって次第に合奏が大きく広がるうちに終焉を迎え、万雷の拍手が釜山国楽院の会場にこだました。最終ステージの国楽院合奏団との合同演奏では、韓国民謡「アリラン」と日本民謡「ソーラン節」をそれぞれクォン・ソンテク氏と稲田氏が担当した。日韓の音楽が見事に融合した時空間を作り上げ、釜山の観客に強い印象を与えた。

政治がぎくしゃくしている日本と韓国の関係であるが、民間レベルの間では極めて友好的な関係が構築できる。日本と韓国の交流は1500年も前に遡る。それほど古くもあり、また地理的にも近い関係にある。不幸な過去を乗り越えて、心と心が本当に打ち解けることを願いつつ、このような活動をこれからも続けていきたいと思う。

(文:理事 英 崇夫 写真:梶田 誠)

第4回全奏協邦楽コンクール結果

2015年8月9日(日)午前11時15分から寝屋川市立地域交流センターアルカスホールに全34組の参加を得て開催した。

予想以上の参加者で急遽開始時間を12時から11時15分

に繰り上げての審査となった。

西は広島から東は千葉まで広範囲からご参加いただいた。7人の審査員によって4時間近くに及ぶ熱演が審査され以下の方々が入賞された(T)。



受賞者の皆さん（8月9日 寝屋川市立地域交流センターアルカスホール）

【達の部】

最優秀金賞 竹本知子さん（愛知県）
「聴る五つの歌」（沢井忠夫）

【萌の部】

最優秀金賞 鹿野竜靖さん（岐阜県）中学1年
「鳥のように」（沢井忠夫）

【達の部】

金賞 橋本桂子さん（大阪府） 「やがて春が」
(三木稔)

金賞 平澤りょう子さん（東京都） 「箏独奏のための三つの詩曲」（清水脩）

【萌の部】

金賞 藤井美巴さん（大阪府）中学1年「風にかけPART II」（吉崎克彦）

金賞 長谷由香さん（茨城県）高校1年「花織り」（水野利彦）

【各賞】

〈全奏協賞〉

邦楽アンサンブル彩音 小西香奈さん 小西由紀さん（茨城）「デュオ絃舞三態」（吉崎克彦）

〈審査員奨励賞〉

安田壮翔さん（京都府）中学1年 「古典本曲 雲井獅子」（不詳）

〈実行委員長賞〉

新垣楓子さん（大阪府）小学2年 「さくら」（宮城道雄）

【熟の部】最優秀賞は該当なし



中国蘇州上海演奏旅行

神戸邦楽ワークショップ（全奏協共催）

2015年10月13日～18日 中国蘇州、上海で神戸邦楽ワークショップ主催（全奏協共催）の演奏旅行を行った。14日蘇州日航ホテルで蘇州松下公演が行われた。蘇州松下社長と従業員、来賓として蘇州の日系企業の役員など90名の参加を得た。15日には蘇州日本人学校での授業と公演を行った。

その後、蘇州観光を行い上海蟹の生産地でカニを堪能した。

16日は上海に移動し、上海国際楽器展覧会の見学とデモ演奏だ。世界最大級の楽器博覧会を見学できることは有意義だった。会場は東京有明の日本最大の見本市会場、ビッグサイト4個分のスケールだ。その夜は、上海松下での演奏会を行い、その後、中国の

方々と歓談し親交を深め中国の方々との交流という目的を果たせたという満足感があった。

最終日の17日は上海総領事館日本文化講座「和楽器体験日本の伝統音楽の調べ」での演奏となった。解説を担当した釣谷真弓氏の「ノンホー」の一言で公演前の聴衆との間の氷の壁が一気に溶けた。「ノンホー」とは上海の方言で北京語の二ハオ（こんにちは）にあたる言葉だ(T)。



▲左・蘇州松下労働組合主催の演奏会 ▲右・上海松下労働組合主催演奏会後の記念撮影 ▼左・蘇州日本人学校での演奏会 ▼中・上海国際楽器展覧会での演奏 ▼右・上海総領事館日本文化講座「和楽器体験 日本の伝統音楽の調べ」での演奏（写真▲右筆者 それ以外 梶田誠）



第4回邦楽合奏フェスティバル(案) 概要決まる

2016年12月9日(金)～11日(日) 阿波銀行が命名権を取得している徳島県郷土文化会館あわぎんホールをメイン会場に、和楽器の素晴らしさや邦楽合奏の楽しさを発信することを目的として地域・流派・プロ・アマチュアを越えて交流、情報交換を行う、本会主催の第4回邦楽合奏フェスティバルの概要が固まった。

□ 前夜祭

12月9日(金)18時から、前夜祭が徳島市内から40分ほどの「神山温泉ホテル四季の里」で行われる。オープニング講演として釣谷真弓(箏曲家・全奏協理事)による「シルクロードにみる和楽器のルーツ」が、それに続いて「あわ邦楽サミット」「徹底討論!邦楽未来への行動」と題して討論会が行われる。パネリストは邦楽関係者から、今藤政太郎(長唄・人間国宝)、稻田康(指揮)、高橋久美子(作曲)、米川敏子(箏曲)他を、邦楽団体から藤本草(日本伝統文化財団)、谷垣内和子(芸団協)、邦楽関係以外から飯泉嘉門(徳島県知事)、木南征美(徳島県議)、宮城治男(起業家 NPO法人 ETIC)、松岡斎(一般・財/日本総研)他、本会から藤本

玲、田中隆文他が参加し邦楽界以外の視点で見た邦楽の未来についても聞けるかもしない。「徹底討論」が期待される。

□ 講習・ワークショップ

「新絹箏糸の聴き比べ」「三味線カンガルー皮」「三味線リップル皮」「尺八」など新開発素材等の楽器を米川敏子、東音新井康子、東音三木千佳子、地歌の藤本昭子、尺八の菅原久仁義他が演奏し音を比較検証し、徳丸吉彦が解説する。

□ 展示

従来の展示に加えて、最近、新開発された二つ折れ箏・多弦箏・ミニ箏など多様な箏の展示、「第3回金沢フェス」で人気だったアジアの楽器の展示も行われる。徳島ならではの「阿波踊りぞめき・人



▲神山温泉ホテル四季の里(HPより)

▼阿波おどりの実演と講習(2016年3月6日徳島市眉山の阿波おどり会館で)



形淨瑠璃 義太夫節」の体験コーナーも設けられる予定だ。

□ コンサート

今回は徳島県文化振興財団が行っている「徳島邦楽ルネッサンス」との連携事業が予定されている。10日には榎原徹の指揮で三木稔作曲の「巨火(ほて)」3楽章のプロ・アマ合同演奏もある。

最終日の11日は、全国から公募で集まった邦楽合奏団によるメインイベントの「邦楽合奏コンサート」が行われ、その後、打ち上げ交流会も予定されている。

時間に余裕があれば鳴門市の大塚国際美術館への観光も楽しめそうだ。お土産にブドウ饅頭もどうぞ(敬称略)。

(内容は3月21日時点でのものです。変更されることもあります)(T)。



第4回邦楽合奏フェスで連携する徳島県文化振興財団が行った「徳島邦楽ルネッサンス」の一コマ。写真左、虚無僧の尺八吹奏による流し。写真中、本会、田中副理事長による「子供向け」のマニアックな尺八講習。写真右、人形淨瑠璃にも使われる義太夫三味線講習会。いずれも、無料で参加できた(T)。(2016年3月6日 あわぎんホール4階で)

理事長ごあいさつ



理事長 藤本 玲

皆様、日頃は全奏協事業にご協力いただき有難うございます。

さて、今夏8月21日の大阪邦楽コンクールは第5回を迎える事となりました。試行錯誤してきた部門は「熱の部」「達の部」「萌の部」と定着でき、運営資金の赤字も大幅に改善に向かっています。これもひとえに関係各位のご尽力の賜物と感謝申し上げます。4月1日～6月30日が応募期間です。皆様のご参加や、お声がけをよろしくお願い致します。

また、12月9日(金)～11日(日)第4回「全国邦楽合奏フェスティバル」は徳島市開催です。前夜祭として、今話題の消費者庁移転候補となった神山町の、神山温泉ホテルで18時より「あわ邦楽サミット」「徹底討論!邦楽未来への行動」を、開催します。アマチュア・プロ・外部有識者・行政関係との討論会は、新しい邦楽の未来の姿を考え、発展の為の討論をして行動へと提言をするものです。

寝食を共にして十分話あい、交流の場を持ちたいと思います。ホテルは貸し切り、温泉は24時間、お酒OKのナイトセッションもあります。翌日からは従来どおり充実の楽しいフェスティバルの始です。

最後に昨年広島で行われたG1サミット中四国地域会議で感銘を受けた言葉をご紹介します。「批判よりも提案を」「思想から行動へ」そして「リーダーとしての自覚の醸成」皆様のふるってのご参加をお待ちしています!

編集
後記

3月初め、徳島県鳴門市の山を繰り抜いて作られた大塚国際美術館に行った。複製画の美術館だが日本で人気NO1だと言う。入場券

売り場は山麓の「地下5階」だ。エスカレータで地下3階に。荘厳なシステムホール前が入口だ。画は全て陶板製。微妙な色も厳密に再現さ

れ二千年朽ちないという。翻って百年後の邦楽界は朽ちるのか。12月の神山温泉での「あわ邦楽サミット」にヒントを見たい(T=広報担当 高橋哲也)。

全奏協通信

第5号 2016(平成28)年3月31日発行

NPO法人全国邦楽合奏協会(全奏協)

<http://zensokyo.org>

Tel 770-8056
徳島県徳島市間屋町43
全奏協本部事務所
TEL・FAX 088-655-7066